

特別支援学級 国語科学習指導案

児童	なかよし学年	男10名	女4名	計14名
	1年	(2名)	2年	(1名) 3年
	4年	(5名)	5年	(1名) 6年
				(2名)
授業者	1班	菊池 潤子 (T1)	田村 美恵子 (T2)	
	2班	井上 美智代 (T1)	谷地田理智子 (T2)	

お手紙を書こう

「お礼の手紙」

1 子どもと単元について

(1) 学習者観

なかよし学年には、1年生から6年生まで、知的障がい、自閉症・情緒障がいの子ども14名が在籍している。本校の特別支援学級で使用している「言語活動におけるチェック表」に照らし合わせてみると、1～6の段階まで幅広い言語能力の子どもたちがいる。聞くことについては、「簡単な指示が分かる」段階から「指示や説明を聞き取り、適切に行動することができる」段階にある。話すことについては、「要求があると、表情や身振りや声で依頼や訴えをすることができる」段階から「相手に分かるように、できるだけ要点を落とさず話すことができる」段階にある。読むことについては、「図形や絵などの異同が分かる」段階から「好きな読み物を読んで楽しむ事ができる」段階にある。書くことについては、「いろいろな用具を使ってなぐりがきをすることができる」段階から「経験したことなどについて、自分の考えたことや思ったことを加えて書くことができる」段階にあり、言語能力において幅広い段階に児童は位置している。

本学年の子どもは、素直で明るく人と接することを喜ぶ子どもが多いが、コミュニケーションの取り方が分からず会話がうまく続かなかったり、新しい環境や初めて経験することに緊張感をもったりする子どもも多にいる。

そこで、話したり、聞いたり、読んだり、書いたりする言語能力を習得することでコミュニケーション能力の向上を図ることをねらいとして、国語科では、「お手紙を書こう」の学習を設定することにした。人とかかわる体験を基にして、相手に自分の思いを伝えるための活動として、他教科・他領域の活動内容と関連させ、「お礼の手紙」「招待状」「感謝の手紙」の題材で書く学習を行う。

日常的には、場に応じた話し方や質問に対する応答の仕方などを学習し、学校内で人とかかわる活動を取り入れたり、段階を踏みながら交流学級の友達とかかわって活動する場を設けたりしている。

これらの活動の繰り返しと継続により、相手を意識し、話したり、聞いたり、読んだり、書いたりする言語能力とコミュニケーション能力を身に付け、日常生活においても、場と相手に合った話し方や接し方ができるようになるのではないかと考える。

(2) 学習材観

本単元「お手紙を書こう」は、相手や目的を考えながら、自分の伝えたいことを書くことをねらいとし、目的が異なる三つの題材について書く活動を行う。

「招待状」は、生活単元学習「校内合宿をしよう」と関連させて行う活動である。この題材では、夕食会に招待する人に「いつ」「どこで」「何をする」のかを知らせ、相手に伝えたい自分の思いを手紙に書いていく活動を行う。この招待状を書いて送ることにより、相手から返事をもらったり、夕食会に来てもらったりして、相手とコミュニケーションをとることができ、また、手紙を書くの喜びを味わうことができる。

「お礼の手紙」は、生活単元学習「遠足に行こう」や「校外学習に行こう」に関連させて行う活動である。この題材では、遠足や校外学習でお世話になった人へお礼の気持ちを伝えるために手紙に書く活動を行う。体験学習で子どもたちが直接かかわりをもって活動することが、相手意識をしっかりとって手紙を書く基となり、お礼の気持ちを伝えたいという意欲につなげることができる題材である。

「感謝の手紙」は、学級活動「感謝をしよう」と関連させて行う活動である。この題材では、学校生活で日頃お世話になっている人に、感謝の気持ちを伝えるために手紙に書く活動を行う。学級活動において、学校でお世話になっている人と一緒に活動したり話をしたりすることを通して、相手により親しみを持ち、感謝の気持ちをもって書くことができる題材である。また、感謝の気持ちを伝えることで、学習後も、相手と進んでコミュニケーションをとっていこうとする意欲にもつなげることができるものである。

本題材「お礼の手紙」は、1学期に行った「お礼の手紙」に引き続き行う学習で、生活単元学習「校外学習に行こう」と関連させて行う。校外学習の「はんこをつくろう」の体験学習を基に、そこでお世話になった人へお礼の手紙を書く学習を行う。

(3) 学習指導観

本単元では、「グループ学習の個別プラン」を基に、四つのグループの児童が、全体学習から生活班へ、生活班から全体学習へという学習過程をとり、個々の課題に応じて学習を進めていく。グループごとの目標は、

- I グループ 「目的を理解し、伝えたいことを相手に分かりやすく手紙に書くことができる。」
- II グループ 「教師と一緒に、伝えたいことを文にして手紙を書くことができる。」
- III グループ 「教師と一緒に、言葉を考え、文を書いたり視写したりして手紙を書くことができる。」
- IV グループ 「教師と一緒に、文字をなぞったり視写したりして手紙を作ることができる。」

である。

本題材で、目的をはっきりさせるための手掛かりとして、具体物や写真、VTRなどを活用する。導入段階では、友達とかかわりながら意欲的に活動ができるように写真やVTRを使ったり、見通しをもって書く活動に取り組めるようにするために、モデル提示を行ったりする。生活班ごとの学習では、個人のねらいを達成するための支援として、個に応じたワークシートを使用したり、書くための思考の手助けとなる短冊や言葉カードを使用して書く内容を確認めたりしていきたい。また、個に応じて教師との対話や口答作文を取り入れたり、IVグループの児童においては、書くことにつながる活動として体験したことをもう一度体験する活動も取り入れたりしていきたい。

単元の学習を進めるに当たっては、下記の言語意識に留意する。

- 相手意識 手紙を出す人
- 目的意識 お礼の気持ちを相手に伝えるために
- 場面・状況意識 お礼の手紙を出す

この「お手紙を書こう」の学習を通して、子どもたちに自分の思いが相手に伝わる喜びを味わわせたいと考える。その喜びを実感できる学習を継続して行うことにより、子どもたちは、人とのかかわりを大切にできるようになり、進んで表現しようとする意欲や態度が身に付いていくのではないかと考える。

2 学習指導目標

- (1) 体験したことを思い出しながら、相手に伝えるために進んで表現しようとする。
- (2) 相手や目的を考えながら、自分の伝えたいことを書くことができる。

3 学習指導計画（5時間）

過程	時間	小単元	ねらい	主な学習活動	評価
見通す	1時	・学習計画を立てよう (全体)	・学習の見通しをもつことができる。	・みんなではんこ作りをしたときのことをビデオや写真を見て思い出す。 ・教師と一緒に学習計画を立てる。 ・モデルによる手紙の書き方を知る。	・学習の見通しをもつことができたか。 《発言・態度》
分かる・できる	2時 本時	・下書きを書こう (生活班)	・お礼の言葉や伝えたいことを書くことができる。	・写真、話し合いを手掛かりに、体験したことを思い出す。 ・ワークシートを使って、お礼の言葉や伝えたいことを順序を考えて書いたり、視写したりする。	・お礼の言葉や伝えたいことを書くことができたか。 《ワークシート》
	3時	・手紙を書こう (生活班)	・お礼の手紙を書くことができる。	・清書の紙に丁寧に間違わずに書く。	・お礼の手紙を丁寧に書くことができたか。 《ワークシート》
	4時	・手紙を書こう (生活班)	・封筒に字の大きさと並びに気を付けて書くことができる。	・モデルや短冊を基に、差出人、あて名、住所を書いたり、視写したりする。	・封筒に丁寧に書くことができたか。 《封筒》
広		・手紙を出そう	・自分が書いた手	・書いた文章を大きな声ではっきり	・自分が書いた手

げ る	5 時	(全体)	紙を発表することが できる。 ・ポストに手紙を 出す。	と発表する。 ・友達の発表をしっかりと 聞く。	紙を発表するこ とができたか。 《発表の様子》
--------	--------	------	--------------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

4 本時の指導

(1) ねらい

①共通のねらい

お世話になった人にお礼の手紙を書くということが分かり、自分の伝えたいことを書くことができる。

②個人のねらいと支援

〈Iグループ(2人)〉

児童	学習の様子 (・学習状況) (・書くこと)	個人のねらい (・態度面) (・書くこと)	支 援	評 価
A	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話を聞きながら、自分のペースで学習を進めている。 既習の学習内容をもとに体験を思い出しながら文を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話をよく聞いて分かったことを進んで表現しようとする。 はんこ作りをしたことを思い出し、伝えたいことを整理して順序よく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを選択しやすいように、自分で作ったはんこや体験の様子写真を提示する。 中心の文を書く欄をワークシートに入れ、順序を整理してから手紙文を書くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> はんこ作りをしたことやその感想を進んで表現しようとしていたか。 お礼の気持ちを入れながら順序よく書くことができたか。
B	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話を聞きながら、意欲的に学習を進めている。 既習の学習内容を基に自分の思いを入れて文を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話をよく聞いて分かったことや自分の考えを進んで表現しようとする。 はんこ作りをしたことを思い出し、自分の思いを入れて順序よく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の発表の中から、自分の学習に取り入れられそうところを見付けながら話を聞くように促す。 順序の間違いを直しやすいように、ワークシートの記入欄に番号を付け、番号の移動で文の順序を整理できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> はんこ作りをしたことやその感想、自分の考えを進んで表現していたか。 相手を意識しながらお礼の気持ちが伝わるように順序よく書くことができたか。

〈IIグループ(4人)〉

児童	学習の様子 (・学習状況) (・書くこと)	ね ら い (・態度面) (・書くこと)	支 援	評 価
C	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつと進んで学習に取り組もうとする。 体験したことを教師と思い出しながら進んで文を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話を聞いて前向きに学習に取り組もうとする。 はんこ作りをしたことを写真、板書を手がかりに思い出し、相手に伝えたいことを順序よく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く姿勢が保てるように、常に意識付けを図る。 伝えたいことを選択しやすいように、自分で作ったはんこや体験の様子写真を提示する。 書きたいことを文を表す前に小見出し(付箋紙)を付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を理解して話したり書いたりしようとしていたか。 小見出しを基に自分が伝えたいことを文に表すことができたか。
D	<ul style="list-style-type: none"> 教師と学習内容を確かめたり学習の見通しをもったりしながら活動している。 体験したことを 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話をよく聞いて分かったことを進んで表現しようとする。 はんこ作りをしたことを写真や板書を手がかりに 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を意識し、どんなことを伝えたいのかを一つ一つ確認しながら進めるようにする。 大事な事柄が分かるような板書を提示し、それを手掛 	<ul style="list-style-type: none"> お礼の気持ちやはんこ作りの感想を進んで表現しようとしていたか。 板書の言葉を手がかりに、お礼の言葉を

	思い出しながら自力で文を書こうとしている。	掛かりに思い出し、お礼の言葉を入れて伝えたいことを書くことができる。	かりに書いたり、教師と一緒に口答作文をして書くようにする。 ・書いた文を読み直し、文のねじれがないかを教師と一緒に確かめるようにする。	入れて伝えたいことを書くことができたか。
E	・教師や友達の話を聞きながら、自分のペースで意欲的に学習している。 ・話したことを基に自力で文を書こうとしている。	・教師や友達の話をよく聞いて分かったことを進んで表現しようとする。 ・はんこ作りをしたことを写真や板書を手掛かりに思い出し、お礼の言葉を入れて伝えたいことを手紙に書くことができる。	・何のお礼でどんなことを伝えたいのかを整理する短冊を用意する。 ・大事な事柄が分かるような板書を提示し、それを手掛かりに書いたり、教師と一緒に口答作文をしたりして書くようにする。	・お礼の気持ちやはんこ作りの感想を進んで表現しようとしていたか。 ・板書の言葉を手掛かりに、お礼の言葉を入れて伝えたいことを書くことができたか。
F	・教師と学習内容を確認めたり学習の見通しをもったりしながら活動している。 ・話合いを基に口答作文をして文を書こうとしている。	・お礼の手紙に必要な内容が分かり、伝えたいことを進んで書こうとする。 ・教師と一緒にはんこ作りをしたことを思い出し、相手に伝えたいことを文にして書くことができる。	・はんこ作りで何をしたのかを確認め、何のお礼でどんなことを伝えたいのかを一つ一つ確認しながら進める。 ・大事な事柄が分かるような板書を提示し、それを手がかりにして口答作文をしながら書くようにする。	・お礼の気持ちや相手に伝えたいことを進んで表現しようとしていたか。 ・板書の言葉や話し合いを手掛かりに、お礼の言葉を入れて伝えたいことを書くことができたか。

〈Ⅲグループ（3人）〉

児童	学習の様子 （・学習状況） （・書くこと）	ねらい （・態度面） （・書くこと）	支 援	評 価
G	・教師と学習内容を確認めたり学習の見通しをもったりしながら活動している。 ・経験したことを思い出しながら教師と一緒に簡単な文を書いている。	・教師や友達の話を最後まで聞いて、確かめながら書こうとする。 ・教師と一緒にはんこ作りをしたことを思い出し、お礼の言葉を入れて正しい仮名遣いで文を書くことができる。	・誰に出す手紙かを確認め、お礼の手紙に必要な事柄を一つ一つ確認しながら進める。 ・板書や言葉カードを手がかりに、教師と一緒に口答作文をしながら1文ずつ書くようにする。 ・書いた文を読み直して、正しく字が書けているかを教師と一緒に確かめるようにする。	・教師や友達の話を最後まで聞いて、書くことを確かめようとしていたか。 ・教師と一緒に手紙に必要な言葉を確認めお礼の言葉を入れて文を書くことができたか。
H	・教師と一緒に学習内容、学習の見通しを確認めながら活動している。 ・体験したことを思い出し、口答作文を基に文を書いている。	・学習の進め方が分かり、進んで伝えたいことを考えようとする。 ・写真や言葉を基にはんこ作りをしたことを思い出し、伝えたいことを教師と一緒に書くことができる。	・ワークシートと板書の構成を同じにし、学習の流れや学習の見通しがもちやすいようにする ・伝えたいことを選択しやすいように、自分で作ったはんこや体験の様子の写真を提示する。 ・ワークシート上に文作りのヒントとなる質問文を提示し、伝えたいことを選択しやすいようにする。	・手掛かりを基に伝えたいことを考え、進んで表現しようとしていたか。 ・はんこ作りをしたことを思い出し、教師と一緒に口答作文をしながら伝えたいことを書くことができたか。

			<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に口答作文（文節ごと）をした後、書くように声をかける。 	
I	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に学習内容を確認しながら活動している。 体験したことを思い出し、口答作文を基に文を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方が分かり、進んで伝えたいことを考えようとする。 写真や言葉を基にはんこ作りをしたことを思い出し、伝えたいことを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートと板書の構成を同じにし、学習の流れや学習の見通しをもちやすいようにする。 伝えたいことを選択しやすいように、自分で作ったはんこや体験の様子写真を提示する。 ワークシート上に文作りのヒントとなる質問文を提示し、伝えたいことを選択しやすいようにする。 自分の気持ちを入れるように声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 手掛かりを基に伝えたいことを考え、進んで表現しようとしたか。 はんこ作りをしたことを思い出し、口答作文をしながら伝えたいことを書くことができたか。

〈IVグループ（5人）〉

児童	学習の様子 （・学習状況） （・書くこと）	ねらい （・態度面） （・書くこと）	支 援	評 価
J	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけを理解し、教師と一緒に活動している。 教師の声がけで鉛筆で線をなぞろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけで活動の準備をしたり、進んで活動しようとする。 言葉に興味をもち、教師と一緒に絵を使ったり線をなぞったりして表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を出す人が分かるように写真を手紙に貼る活動をする。 書く言葉を教師と一緒に指さして確かめ、色や形を見て言葉を作る。 学習の中に、自分で進められるような動きのある活動を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけで活動を続けようとしていたか。 教師と一緒に言葉を作ったり線をなぞったりして手紙を作ることができたか。
K	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れ、進め方が分かると教師と一緒に活動を進める。 手本を見ながら平仮名を視写している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に学習に参加しようとする。 教師と一緒に手本を見ながら平仮名を視写することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方について見通しをもたせる。 集中力が持続するように、一つ一つの活動を短くし、その都度評価する。 ワークシートに合わせて1文ずつの手本を用意し、教師と一緒に読む。それを見ながら自力で書き進めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて学習に参加しようとしていたか。 手本を見ながら教師と一緒に読んだり自力で書いたりすることができたか。
L	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習の仕方が分かり、教師と一緒に活動している。 平仮名をなぞったり視写しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけで活動の準備をしたり、進んで活動しようとする。 教師と一緒に手本を見ながら文字を使って表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を出す人が分かるように写真を手紙に貼る活動をする。 なぞりの部分と言葉を声に出してから書く部分をワークシートに入れる。 教師と一緒に書いた字を読み返す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけで活動を続けようとしていたか。 教師と一緒に言葉を確かめ、文字を読んだり書いたりすることができたか。
M	<ul style="list-style-type: none"> 教師の問いかけに簡単な言葉で反応し、書こうとする。 手本を見ながら 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけで活動の準備をしたり、進んで活動しようとする。 教師と一緒に手本を 	<ul style="list-style-type: none"> 学習することを確認め、見通しをもって活動に入るようにする。 手紙を出す人が分かるように写真を手紙に貼る活動を 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけで活動を続けようとしていたか。 教師と一緒に言葉を確かめ、手本を見な

	平仮名を視写している。	見ながら平仮名を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートになぞりの部分を入れて、平仮名の形に気を付けて書くことができるようにする。 教師と一緒に単語を読みながら書くようにする。 	がら言葉を読んだり書いたりすることができたか。
N	<ul style="list-style-type: none"> 教師の問いかけに簡単な言葉で反応し、書こうとする。 手本を見ながら平仮名を視写している。平仮名の30字以上自力で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけで活動の準備をしたり、進んで活動しようとしていたりする。 教師と一緒に手本を見ながら平仮名を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を出す人が分かるように写真を手紙に貼る活動をする。 ワークシートになぞりの部分と手本を見て書く部分を入れる。 教師と一緒に書いた字を声に出して確かめ、文を読めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声がけで活動を続けようとしていたか。 教師と一緒に言葉を確認め、手本を見ながら言葉を読んだり書いたりすることができたか。

(2) グループごとの展開

【Iグループのねらい】 目的を理解し、伝えたいことを相手に分かりやすく手紙に書くことができる。

段階	学 習 活 動	・ 支援 ◆ 評価《評価方法》	教 具
つかむ	1 前時の学習を想起する。 2 学習内容を確認める	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習（手紙で伝えたいことを書く活動）を確認するために、学習計画や写真などで何をしたのかを見て確かめるように促す。 	写真 モデル 短冊黒板
伝えたいことを書く	3 体験したことを想起する。 4 伝えたいことを記述する。 5 手紙の形式で書く。	<ul style="list-style-type: none"> 「いつ」「どこで」「何をした」のかを確認める。 「だれ」に「どんな」お世話になったかを確認める。 口答作文を促す。 写真や紙板書を提示しながら経験したことを子どもと話し合いながら思い出す。 経験したことの中から思い出に残っていることを選び、言葉カードなどを使って書く内容を確認めるように声がけをする。 はんこ作りの写真を見ながら、そのときの感想を質問する。 具体的に書くことが難しいときは、教師が質問をして、口答作文を行う。 表現のよいところに波線を引いたり、丸を付けたりする。 順序を整理するために短冊シートを用意する。 相手に分かりやすく書くことができたか自分で読み直しをして確かめるように促す。 手紙の形式として、「結びの文」「日付」「自分の名前」を確認める。 ◆はんこ作りでお世話になった人へ、伝えたいことを分かりやすく書くことができたか。《ワークシート》 	ワークシート 紙板書 写真 言葉カード 短冊
まとめる	6 学習を振り返る。 7 次時の学習を確認める。	<ul style="list-style-type: none"> 相手に自分の気持ちが伝わる手紙が書けたかを振り返るように促す。（自己評価） 清書をするを確認める。 	

【Ⅱグループのねらい】教師と一緒に、伝えたいことを文にして手紙を書くことができる。

段階	学 習 活 動	・ 支 援 ◆ 評価《評価方法》	教 具
つかむ	1 前時を想起する。 2 学習内容を確認める。	・ 本時の学習（手紙で伝えたいことを書く活動）を確認するために、学習計画や写真で何をしたのかを見て確かめるように促す。	写真 モデル 短冊黒板
伝えたいことを書く	3 体験したことを想起する。 4 伝えたいことを記述する。 5 手紙の形式で書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いつ」「どこで」「何をした」のかを確認める。 ・ 「だれ」に「どんな」お世話になったかを確認める。 ・ 口答作文を促す。 ・ 写真や紙板書を提示しながら経験したことを子どもと話し合いながら思い出す。 ・ 経験したことの中から思い出に残っていることを選び、伝えたいことは何かを確認めるようにする。 ・ 経験した事を書くための手掛かりになる言葉カードをワークシート上に準備する。 ・ 助詞や語尾に気を付けてねじれない文を書くように個別に声かけをする。 ・ 口答作文ができるように教師が個別に発問をする。 ・ 正しく書けた文に、丸を付ける。 ・ 正しく書くことができたか、書いた文を読み直しをして確かめるように促す。 ・ 手紙の形式として、「結びの文」「日付」「自分の名前」を確認める。 <p>◆ はんこを作った事を教師と一緒に思い出し、相手に伝えたいことを書くことができたか。 《ワークシート》</p>	紙板書 ワークシート 写真 短冊 言葉カード
まとめ	6 学習を振り返る。 7 次時の学習を確認める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の伝えたいことが分かる手紙が書けたかを振り返るように促す。（自己評価） ・ 友達の発表を聞くことを声かけする。 ・ 清書をするを確認める。 	

【Ⅲグループのねらい】教師と一緒に、言葉を考え、文を書いたり視写したりして手紙を書くことができる。

段階	学 習 活 動	・ 支 援 ◆ 評価《評価方法》	教 具
つかむ	1 前時を想起する。 2 学習内容を確認める。	・ 本時の学習（手紙で伝えたいことを書く活動）を確認するために、学習計画や写真で何をしたのかを見て確かめるように促す。	写真 モデル 短冊黒板
伝えたいことを書く	3 体験したことを想起する。 4 伝えたいことを記述する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いつ」「どこで」「何をした」のかを確認める。 ・ 「だれ」に「どんな」お世話になったかを確認める。 ・ 口答作文を促す。 ・ ワークシートに補助的な言葉やなぞりの部分を入れておく。 ・ 学習する場面や経験したことの手掛かりとなるはんこ作りの写真カードを提示する。 ・ 写真カードを見ながら子どもと経験したことを話し合い、口答作文で確かめるようにする。 ・ 写真カードを見ながら、ワークシートに「何を」 	紙板書 ワークシート 写真

	5 手紙の形式で書く。	<p>「どうした」のかが分かるような文を書くことができるように、声に出して書いた文を読んでみるよう声がけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や文を正しく書くために、言葉カードを使って書くように声がけをする。 ・書けた文には、1文ごとに丸を付ける。 ・表記の間違えがないか、読み直して確かめることができるようにする。 ・手紙の形式として、「結びの文」「日付」「自分の名前」を確かめる。 ・板書を見ながら書くように声がけをする。 ◆教師と一緒に、はんこ作りのことを思い出し、お礼の言葉を入れながら、手紙を書くことができたか。《ワークシート》 	言葉カード
まとめ	4 学習を振り返る。 5 次時の学習を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・お礼の言葉が書けたかを振り返るように促す。(自己評価) ・友達の発表を聞くことを声がけする。 ・清書をするを確かめる。 	

【IVグループのねらい】教師と一緒に、文字をなぞったり視写したりして手紙をつくることができる。

段階	学 習 活 動	・支 援 ◆ 評価《評価方法》	教 具
つかむ	1 前時を想起する。 2 学習内容を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を始める姿勢になり、あいさつの声と礼の仕方に気を付けるように声がけをして学習する態勢をつくるようにする。 ・本時の学習（はんこ作りをしたときのことを書く活動）を確認するために、学習計画や写真などで何をしたのかを見て確かめるように促す。 	写真 短冊黒板
思い出して活動する	3 体験したことを想起する。 4 手紙をつくる。 5 言葉の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙をつくることを意識付けるために感謝の言葉を声に出して言うように促す。 ・学習する場面や経験したことの手掛かりとなるはんこ作りの実物や写真を提示する。 ・写真カードをワークシートに貼り、お手紙を出す人のことを知らせる。 ・色分けシールのマッチングで教師と一緒に言葉をつくる。 ・平仮名を視写したり、なぞったりする。 ・言語の獲得や習得のため個に応じた操作を取り入れた言語活動を行うようにする。 (言葉づくり、なぞり、視写、体験活動等) ◆教師と一緒に、言葉を視写したりなぞったり、作ったりすることを通して、書くことに興味関心をもつことができたか。《ワークシート》 	実物 写真カード 紙板書 ワークシート 短冊 材料、道具等
まとめ	4 学習を振り返る。 5 次時の学習を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作った手紙を紹介し頑張りを認め、達成感をもたせるとともに、次時への意欲につなげていくようにする。 ・次時は、手紙の仕上げの学習であることを確かめる。 	

「お礼の手紙」 1 班展開案

- Ⅱグループねらい 教師と一緒に、伝えたいことを文にして手紙に書くことができる。
- Ⅲグループねらい 教師と一緒に言葉を考え、文を書いたり視写したりして手紙を書くことができる。
- Ⅳグループねらい 教師と一緒に、文字をなぞったり視写したりして手紙をつくることができる。

段階	学習活動	形態	○ 具体的な活動 ・ 支援、指導事項			
			Ⅱ < D・E・F >	Ⅲ < G >	Ⅳ < L・M・N >	< J >
課題をつかむ	1 前時を想起する。(2分)	全	○前時の学習を振り返り、本時の学習すること確かめる。 ・どうしてお手紙を書くのか目的をもてるようにお手紙を出す人の写真を提示する。			
	2 学習内容を確認する。(2分)	個	○本時の学習すること確かめる。 ・めあてを一緒に読み、学習に集中する態勢を作る。			
伝えたいことを書く	3 体験したことを想起する。(6分)	全	○「お礼の手紙」に必要な事柄を確認する。 ・「誰に」お世話になったのかを確認し、相手意識をもって書けるようにする。 ・体験したことを思い出すために「いつ」「どこで」「何をした」のかを教師と一緒に確認する。			
	4 伝えたいことを記述する。手紙をつくる。(15分)	個	○伝えたいことを書く。(T1) ・はんこ作りでどんなことをしたのかを確認するために写真を提示する。 ・「伝えたいこと」を整理して書くためにキーワードとなる言葉を板書する。 ・書く内容が何か分かるように、板書の言葉を手掛かりにして、見ながら書くように促す。 ・Eには、事柄を整理して書くために短冊を書くように促す。 ・口答作文や対話で書く文を確認するようにする。(T1)			
	5 手紙の形式で書く。言葉の練習をする。(10分)	グループ	○結びの文を書く。 ・口答作文をして、書くことを確かめる。(T1) ○「日付」「自分の名前」「手紙を出す人の名前」を書く。 ・「日付」を声に出して確認する。 ・手紙を出す人の名前を黒板の板書で確認し、視写するように促す。 ・必要な事柄を入れて書けたかを見直すように促す。(T1)			
まとめる	6 学習を振り返る。(9分)	全	○学習したことを発表する。 ・Ⅱ、Ⅲの児童には、みんなに分かる声の大きさ速さで読むように声をかける。 ・Ⅳの児童の活動した物を見せて紹介する。 ・ワークシートに書いたことを振り返るように促し、発表後、よかった表現について評価する。 Ⅱ◆はんこ作りでお世話になった人へ、伝えたいことを文にして書くことができたか。 Ⅲ◆教師と一緒に言葉を考え、文を書いたり視写したりして手紙を書くことができたか。 Ⅳ◆教師と一緒に、言葉に触れる活動を通して、書くことに興味・関心をもつことができたか。			
	7 次時の学習を確認する。(1分)	全	○次の時間の学習内容を知る。 ・本時の下書きを基に手紙の清書をするを確認し、意識化を図る。 ・相手に喜んでもらえる手紙をつくらうとする意欲をもつことができるように声をかける。			

お れ い の て が み を か こ う。

○色シールで言葉をつくる。
・平仮名の形を確認するために、教師と一緒にシールで名前を作る。(T1)

○自分の名前を教師と一緒になぞる。(T1)

○言葉づくりの練習をする。
・自分で活動を進めることができるようにするために、道具を準備するように声をかける。
・一つずつ終わるのを確かめ、できたら次に進むように促す。
・丸を付け評価する。(T1)

○手紙を出す人を確認する。
・教師と一緒に写真を貼る。(T2)
・手紙を出す人を確認するために教師と一緒に名前を視写する。
・平仮名を自力で使えるようにするためにワークシートのなぞりの部分を手掛かりに書くように声をかける。(T2)

○言葉や文を書く。
・平仮名を自力で使えるようにするためにワークシートのなぞりの部分を手掛かりに書くように声をかける。(T2)

○自分の名前を書く。
・正しく丁寧に書くために教師と一緒に書き出しを確認する。
・教師と一緒に自分の写真を貼る。(T2)

○メッセージカードをつくる。(T2)
・道具を準備するように声をかける。
・丁寧に書くために教師と一緒に書く言葉を確認する。(T2)

「お礼の手紙」 2 班展開案

- I グループのねらい 目的を理解し、伝えたいことが相手に分かりやすく手紙に書くことができる。
- II グループのねらい 教師と一緒に、伝えたいことを文にして手紙をかくことができる。
- III グループのねらい 教師と一緒に言葉を考え、文を書いたり視写したりして手紙を書くことができる。
- IV グループのねらい 教師と一緒に絵を使ったり文字を視写したりして、手紙をつくることができる。

段階	学習活動	形態	○具体的な活動 ・支援, 指導事項					
			I (A, B)	II (C)	III (H, I)	IV (K)		
課題をつかむ	1 前時の学習を想起する。(2分)	全	○前時の学習を想起し、学習することを確かめる。 ・「誰に」出すのかを確認し、相手意識をもてるようにする。					
	2 学習内容を確かめる。(2分)	全	○本時の学習を確かめる。 ・速さに気を付けながらはっきり読むように促す。 ・モデルを提示し、どのように書けばいいのか見通しがもてるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">お れ い の て が み を か こ う 。</div>					
伝えたいことを書く	3 伝えたいことを記述する。(30分)	全	○お礼の手紙に必要な事柄を確かめる (伝えたいこと①) ・何をしたら全員で想起し、どんな場面でお世話になったかを確かめる。 ・「ありがとう」という言葉を使うことを確かめる。					
		個	○伝えたいことを詳しく書く (伝えたいこと②) ・はんこ作りでお世話になったことについて写真を見ながら一人ずつ確かめる。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ Bには確かめたことを基に、はんこに対する自分の気持ちを入れながら書くように促す。 ・ Aは、初めに中心の文を書き、伝えたいことが順序よく書けるようにする。 ・ 順序が間違っていたらAは短冊を動かして、Bは()に正しい番号を書き入れるようにする。 ・ Bに時間の目処を知らせる。(T 1) </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口答作文を基に書くことができるようにする。 ・ 小見出しを付け、できるだけ自力で文作りができるようにする。 ・ 記述が終わったら、読み返すこと、板書等を見て付け足したくないか確かめることを促す。(T 2) </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口答作文を基に書くことができるようにする。 ・ Iにはワークシートの質問文を読み、伝えたいことを考えるように促す。 ・ Hは教師と一緒に伝えたいことを確かめてから書くようにする。 ・ Hの口答作文後の記述は、文節ごとに行う。(T 1) </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを見せ、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・ 1行ずつ手本を与え、何を書くのかがはっきり分かるようにする。 ・ 集中力が持続するように1行ずつ視写するようにし、その都度評価する。 ・ 終わったら静かに待っているように声がけをする。(T 1) </td> </tr> </table>				<ul style="list-style-type: none"> ・ Bには確かめたことを基に、はんこに対する自分の気持ちを入れながら書くように促す。 ・ Aは、初めに中心の文を書き、伝えたいことが順序よく書けるようにする。 ・ 順序が間違っていたらAは短冊を動かして、Bは()に正しい番号を書き入れるようにする。 ・ Bに時間の目処を知らせる。(T 1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口答作文を基に書くことができるようにする。 ・ 小見出しを付け、できるだけ自力で文作りができるようにする。 ・ 記述が終わったら、読み返すこと、板書等を見て付け足したくないか確かめることを促す。(T 2)
<ul style="list-style-type: none"> ・ Bには確かめたことを基に、はんこに対する自分の気持ちを入れながら書くように促す。 ・ Aは、初めに中心の文を書き、伝えたいことが順序よく書けるようにする。 ・ 順序が間違っていたらAは短冊を動かして、Bは()に正しい番号を書き入れるようにする。 ・ Bに時間の目処を知らせる。(T 1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口答作文を基に書くことができるようにする。 ・ 小見出しを付け、できるだけ自力で文作りができるようにする。 ・ 記述が終わったら、読み返すこと、板書等を見て付け足したくないか確かめることを促す。(T 2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口答作文を基に書くことができるようにする。 ・ Iにはワークシートの質問文を読み、伝えたいことを考えるように促す。 ・ Hは教師と一緒に伝えたいことを確かめてから書くようにする。 ・ Hの口答作文後の記述は、文節ごとに行う。(T 1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを見せ、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・ 1行ずつ手本を与え、何を書くのかがはっきり分かるようにする。 ・ 集中力が持続するように1行ずつ視写するようにし、その都度評価する。 ・ 終わったら静かに待っているように声がけをする。(T 1) 					
全	○結びの文を書く。 ・ 結びの文の書き方を全員で確かめる。							
全	○「月日」「差出人」「宛名」を書く。 ・ モデルを提示し、どこに何を書くのかを確認する。							
まとめる	4 学習を振り返る。(10分)	全	○学習したことを発表する。 ・ 教師が個々のがんばりを認める。 ・ 子どもたちの発表の後、よかった表現について評価する。 I ◆相手を意識しながら伝えたいことを分かりやすく書くことができたか。 II ◆はんこ作りをしたことを想起し、伝えたいことを書くことができたか。 III ◆教師と一緒に文を考え、お礼の文を書くことができたか。 IV ◆教師と一緒に平仮名を読んだり、視写したりすることができたか。					
	5 次時の学習を確かめる。(1分)	全	○次の時間の学習内容を知る。 ・ 次時は本時の下書きを基に清書することを確認し、意識化を図る。					